

千葉城北会誌

第19号

令和4(2022)年11月

城北会千葉支部

目次

| | |
|----------------------------|----|
| はじめに | 2 |
| 岡田 光正 (昭 35) | |
| 古事記は面白い！ | 3 |
| 白石 治比古 (昭41) | |
| 『戸山高校卒業50年誌』を「電子データ」で作成した話 | 6 |
| 高橋 棟作 (昭31) | |
| 尾崎 英二 (昭31) | |
| 鉄道のゲージの話 | 12 |
| 斉藤 徳浩 (昭32) | |
| 私と国際親善交流 | 14 |
| 於保 洋生 (昭35) | |
| 深井鑑一郎先生と深井奨学財団について | 16 |
| 後藤 公一 (昭 50) | |

はじめに

昨年(2021年)の城北会千葉支部の総会は、コロナ蔓延により千葉支部の総会懇親会は中止としました。コロナ生活も3年目に入り、今年是对面での総会・講演会を開催する運びとなりました。在宅診療に携わる小堀鷗一郎先生に「在宅で、看取られる人、看取る人 ～それぞれの選択～」をテーマに東邦大学にて公開講座形式で講演をいただきました。

千葉城北会誌は例年通り発行して、知的好奇心を大事にする千葉支部の伝統を継続しております。今回は19号になりますが、多くの皆さんに寄稿いただきました。

外国からのインバウンドを皮切りに、コロナによる活動の停滞を払拭する時期が来ていると感じています。皆様には千葉支部の活動に奮って参加いただければ幸いです。

令和4年11月

城北会千葉支部会長
岡田光正(昭35)

古事記は面白い！

白石 治比古（昭41）

「古事記は神話だ！」なんて大声で言い切ってしまうと、戦前は「おい！ちょっと」と警察に呼ばれてしまったらしいんです。なんと古事記は事実としての「日本史」それも神聖不可侵の「天皇史」だったんですから。

だから、アメリカに負けたと親から聞かされて育った子供の頃はとても悔しい気分でいっぱいだったけど、アメリカのおかげで「古事記」を名も無い市民がどう言おうと警察のお世話にならなくてよくなったので、大人となった今はある意味うれしいですね。

ところで古事記原文に直接に接すると全部漢字で、しかも独特の解釈なのでフツウの人には読解無理。

そこで、大変便利なのは岩波文庫の「現代語訳古事記」。現代語訳したのは蓮田善明氏。この人、終戦をマレー半島で迎えたとき、連合国に迎合する上官を射殺して自決したんだそうです。ある意味ロマンチストらしい文章で、妙に心に響くんですね。いいか悪いかは別として好きな人です。三島由紀夫の親分みたいなもんかな。

さて、まったく古事記を読んだことのない人向けにテキストだけけど面白そうなところだけお話ししましょう。

1) 国生み

初めに男女の神様がセックスして国土が生まれたというお話。なんと国土は神の子なんだそうです。国土が生まれてから後、その他の神々が生まれたのですが、ここがとても大事なところ。つまり国土は諸処の神社のさらに上に奉るもので、絶対荒らしてはいけな、ということになりますね。SDGsのさきがけですね。ところで、ハワイにも国生み神話がありますがちょっと違ってきます。ハワイ島など3島は同じ父母神の下に生まれましたが、ラナイ島とモロカイ島は父神の不倫の子。それに怒った母神が復讐で人間との間にもうけたのがオアフ島。よりを戻した夫婦神がさらにもうけたのがカウアイ島。これがハワイ一家なんです。

うーん、ちょっと微妙。いかに島対島の戦争をしたかよく表わしていますね。その点日本は独特。島対島の戦争より島の中での談合の方が多かったみたいです。神代の昔から「談合」列島なんですよ。

さて、国生みで生まれた順番ですが、これがすごく傑作。

- ①淡路島
- ②四国(胴体が1つで顔が4つ。つまり4つの地域に別れている)
- ③隠岐島(三つ子)
- ④九州(胴体が一つで顔が4つ。4地域ということ)
- ⑤壱岐島
- ⑥対馬
- ⑦佐渡島
- ⑧本州

すごい順ですね。大和朝廷が征服した順番なんですか。

ところで、なにか欠けていますよね。わかりますか？

そう、北海道と沖縄。だからアイヌ民族・琉球民族などの先住民は「お客様」として大事にしてね。外来合流神家族の七福神みたいに仲良くするんだよ、ってわけです。まして戦時中に喧伝された天皇が世界を統率する「八紘一宇」みたいな世界観はどこにもありませーん。昔のヒトは無理しなかった。日本列島の一部で満足していたってことですね。

2) スサノオ

この男神はひどい神で、現代から見ると徹底的に犯罪者。文章にするには R20 指定的な兇行を次々に犯し、あまりにひどいので姉の太陽神がついにストライキを起こして岩穴の中に入り、扉を閉じてしまったのです。さあ大変。ずっと暗い夜ばかりになってしまったので、他の神々はセックス以外やるのがなくなり、困りはてて色々考えた末、「そうだ、岩穴の前でパーティーをやろう！」、ということになりました。ある女神にいたってはついにストリップショーまでやり、それはそれは盛り上がりました。ま、ここらへんになると日本の神様ってほぼ現代のフツウの人の感覚と変わりませんね。1980年代の「お立ち台」ですか。あまりに外が騒がしいので思わず太陽女神が岩穴の扉から少しだけ顔をのぞかせて、どうしたのよと扉の前の神に聞いたところ、その神は「あなたより尊い神が現れたのです」とウソを言って鏡を差し出したのです。太陽神はそこに写っているのは自分自身なので、「どうなってんの？」と身を乗り出したところを待ち構えていた力自慢の神が扉をこじ開けてついに太陽神再来となりました。実に微妙な心理を突いた話ですね。まったく日本の神様たちは油断も隙もありやしません。さて、ここで重要なことは絶対的な権威を持った神様はいませんし、善悪を裁く神様もないということです。もう一つは力のある神様に対しては力のない神様同士多数が協力し合って一つにまとまって対抗しているところです。さらには、事件ごとに個別に妥当な線で折り合う形にしています。談合とストライキ・村八分の社会です。意外と民主的でしょう？少なくとも専制主義とはうまが合わないってことでしょうね。

さてその後、こんな事態を招来した張本人としてスサノオをみんなで追い出したわけです。はじめから追い出しておけばよかったのに、と思うのですが、当時としては、具体的な「オオゴト」がなければ衆議一決しなかったんでしょうね。これって今でもなんとなくそうですね。

さて、こんなスサノオが神様と言えるのか、オマツリして毎日手を合わせられるのか、と思うのですが、なんとこの神様こそ日本を作った神様なんだそうです。だからもともと日本ってウソだらけで暴力的でデタラメなんだって納得しちゃうんですが、ま、ここからがちょっとまじめな話になります。

3) ヤマタノオロチ

神様たちのいたタカマガハラを追放されたスサノオは流れ流れて出雲に来ます。股旅者の始まりですかね。国定忠治みたいなもんです。そこで少女を前に泣いている老夫婦の神様に出会います。ここでいきなりワルのスサノオは人生相談の受付するんですね。自分がピンチなのによくまあ、ってところがこのスサノオの半端じゃないところなんでしょう。聞くと高志(こし)のヤマタノオロチが毎年やってきて娘を食べるので、今年もこの娘が食べられるのかと泣いていたのだそうです。ヤマタノオロチは八つの山や谷と杉や檜を乗せた超巨大な蛇で、八つの頭と八つのシッポがあるとのこと。まるで誰も太刀打ちできません。でもスサノオは平気の平左で、まず自分はタカマガハラから来た(追放されたことは隠してブランドだけ光らせて)その娘と結婚したいと言って承諾を受けてから、娘を櫛に変身させて自分の髪にさし、老夫婦に迎え撃つ準備を促しました。つまり家の周りに垣をめぐ

らし、八つの門を設け、その内側に酒を用意させました。要するに八つの頭に一つの胴のヤマタノオロチの弱点は、八つの頭がそれぞれに小さな穴に入ると身動きできなくなるのです。ちょうど第二次大戦で日本軍がソ満国境戦線・中国戦線・東南アジア戦線・インド戦線・北太平洋戦線・南太平洋戦線・オーストラリア戦線・アメリカ戦線で八つ裂き状態になって本土爆撃を受けた形を思い浮かべればいいんじゃないかと思います。日本軍の指揮者は古事記を忘れたんでしょうかね。見事畏にはまったヤマタノオロチはスサノオに退治され、スサノオは娘とめでたく結婚し、ヤマタノオロチのシッポから出てきた剣も手に入れて、メダシメダシ。でもヤマタノオロチが下戸だったらこの作戦は初めからアウトのところでした。確実に「のんべえ」だという情報もたらされていたんでしょうね。タタカイの基本は冷静な頭と情報です。さて現代の日本は今後どうなるか。古事記はまだまだ続きますが、今日はこの辺で。

『戸山高校卒業50年誌』を「電子データ」で作成した話

高橋 棟作 (昭31) 尾崎 英二 (昭31)



我々は、2006(平成17)年に、都立戸山高校卒業50周年を迎え、記念として『卒業50周年誌』を作成しました。特記すべきは、媒体を紙でなく、CD(コンパクトディスク)にしたことです。左図は、そのジャケット、同期渡辺藤一画伯の装丁。三隅の画像は「バケツ・ロバ・フレンチブルドック」、「ほんとうは野の花のように・・・」は、同期柳沢桂子さんのベストセラー「生きて死ぬ知恵」からの引用です。DXなど叫ばれる前に電子化にチャレンジした経緯・感想など報告させていただきます。

昭和27(1952)年:同期生一同は戸山高校に入学しました。

嬉しかったです。入試倍率=1.5倍。しかし、級友の約10パーセントが戦争等で父親を失っていました。府立四中から戸山高校(男女共学)に変わって4年ですが、やはり「世の中をリードする気風」があったと思います。戸山高校新聞部は、第25号:昭和27年9月19日発行から、第32号:昭和28年9月19日発行まで、『米軍大久保射場問題(銃声問題)』の特集を行い、大手の新聞も取り上げていました。

同期の野口武彦神戸大名誉教授(全国学生自治会連合会、早稲田・東大・ハーバード大学客員研究員・プリンストン大学客員教授)の著書「江戸の風格」の冒頭に『大久保のツツジ 百人組同心の内職』との項があります。

「幕末の切絵図を見ると、西大久保一帯は鉄砲百人組同心の大縄地(組屋敷地)となっているが、区画に大きな特徴がある。一戸あたりの宅地が短冊形をしていて奥行きが異様に深い。鉄砲稽古のために長い距離が必要だったのだろう。……切絵図ではその上に「ツツジの名所」の表示がある。この独特の地形は、後の歴史にも痕跡を留めている。明治には戸山ヶ原陸軍練兵所になって射撃訓練に使われ、第二次大戦後は一時米軍に引き継がれた」と記して居られます。別件として高田馬場駅の西側、高田馬場 4-29-39 には「鉄砲稲荷」があります。

昭和31(1956)年:戸山高校卒業

卒業とは言うものの、「浪人=ひとなみ」と称して、校内に伝統の「卒業生講習会」があり、さすがに運動会は無いのものの遠足はあり、先生同行の40人強で「奥多摩の高水三山」を訪ねたものでした。

同行の柴田治先生は肺結核経験者で「焦らず・一步一步」のお手本でした。某学習塾を受験し、成績一番と言われて「それなら戸山の講習会の方がレベルが高い」と「戸山の卒講」を選んだと言う松香さん(日立製作所代表取締役副社長)。防衛大に合格した際に「そんな所に参加するな!」と、自宅にまで忠告に来た級友を持つ井田さん(瑞宝小綬章)もいました。

昭和56(1981)年 10月 17日:卒業25周年記念・謝恩会

新宿京王プラザホテルで、**先生方11名**をお迎えし、**総勢131名**にて、記念パーティーを開催しました。

戸山高校の校庭に記念樹として、「校章にちなむ柏の木」を植えさせて頂きました。校舎改築に伴い、ビオトープ地区に移植され元気です。最近、経緯を示す樹名板をつけさせて頂きました。



平成18(2006)年 3月 25日:卒業50周年記念の会

新築された母校の校舎の見学を兼ねて会を開催しました。記念事業として「CD版卒業 50年誌の



刊行と頒布」を展開し、**ご来賓(恩師、城北会幹部の方々)6名、会員99名**と予期以上の皆さんに参加頂きました。電子データで50年誌を作成した理由は、同期会「やあやあ会」の卒業後5年からの交信記録150ページ超の膨大な記事を掲載したためでした。企業の特許部門にいた磯野さんの知見でCD化が提案され各人の分担作業が進み、無事に配布出来た次第です。

「昭和31年卒・卒業五十周年記念誌」の資金と「戸山エコファンド」のこと

一般的な組版カラー印刷で、「卒業五十周年記念誌」を発行するとなると、部数にもよりますが、120 から 170 万円くらいかかると言われました。しかし、我々の場合は、メインである過去の記録のデータ化(スキャニング)作業を手分けして実施し、電子化原稿までを自作したので、印刷・製本代はかかりませんでした。そのため「卒業五十周年誌」の資金を、記念集会の会費に含めて集めることはせずに、集まった資金の中から金 504,800 円を「戸山エコファンド」名で母校に提供しました。

「昭和31年卒・卒業五十周年記念誌」の内容のこと

当時の編集委員会で、色々議論しましたが、私(尾崎)の記憶では「内容は必ずしも戸山高校時代の思い出や先生方についてだけでなく、今迄の仕事や研究、今後の人生など、について幅広い内容」でまとめることで、同期生に呼びかけました。これには、自然発生的な事実上の同期会「や

あやあ会」の創立メンバーの渡辺藤一画伯が主張され、結果的に、昔の思い出などの記事の他にも多岐に渡っての原稿が集まりました

CDなど電子記録について・将来はメモリーカードかクラウドか？

意図とした「あやあ会」発足後 45 年余の膨大な資料の保存・共有は無事成功しました。更に、同期ホームページを開設し、その後の会合・出版・消息などの情報を共有し、現在記録保存を検討しています。但し、技術規格は問題です。例えば「城北会千葉支部会誌」は第三号まではPDFが非公開で使えず、別規格で電子化し、その後修正しました。、GoogleBooks で全世界大の巨大な図書館が出現するなど、エジプトのパピルスは数千年後に読めたのだが、紙でない電子データは2000年後に生存？とも感じます。

戸山高以外の「卒業五十周年記念誌」について

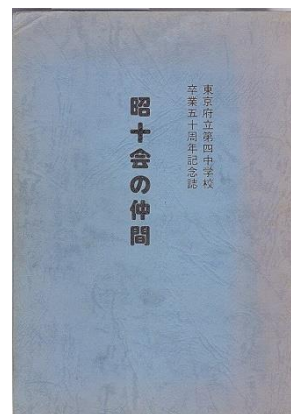
国立国会図書館の蔵書検索で「卒業五十周年記念誌」と検索すると、色々ヒットします。府立四中関連でも「昭和十七年卒」と「十八年卒」、戸山で「二十五年卒」が国会図書館に蔵書されていますが、他にも下記などがあります。

- 府立一中卒業五十年記念誌 昭和一九期如蘭会 昭和一九期如蘭会 1993
- 木々の翠をあとにして：都立六中新宿高校卒業五十年記念誌 終始会卒業五十年記念行事委員会 編 朝陽同窓会終始会 1998
- 戦争と共に歩んだ青春：中島飛行機学徒動員の記録 早稲田実業学校 昭和二十年三月卒業五十年記念誌 中稲会 編 中稲会事務局 1996
- 本郷のなかまたち：東京大学医学部昭和二四年卒業五十年記念誌東大医二四年会 東大医二四年会 1999
- 東北大学医学部卒業五十年記念誌 二九会 二九会 2005
- 遥かな道：青山学院高等女学部女子高等部卒業五十年記念誌 編集委員会 編 刊行世話人会 2000

「卒業五十周年記念誌」の発行は一つの文化のようです。公立学校統廃合の可能性もあり、戸山の「卒業五十周年記念誌」を城北会のみでなく、城北会等での公開了解？を明確にして、国会図書館への献本・永久保存も宜しいのではないのでしょうか。

府立四中:昭和十年卒業の方々の卒業五十周年誌のこと (尾崎)

手元に、「昭十会の仲間」と言うA5版約 300 頁の冊子があります(右図)。これは、「府立四中:昭和十年卒の方々の卒業五十周年誌」です。私が、城北会理事会で昭和十年四中卒の村上達三さんから頂戴しました。氏は 2016 年に深井奨学財団に多額の寄付をされ深井功労者になって居られます。激動の時代を過ごされた方々の「五十周年誌」を紹介させて頂きます。



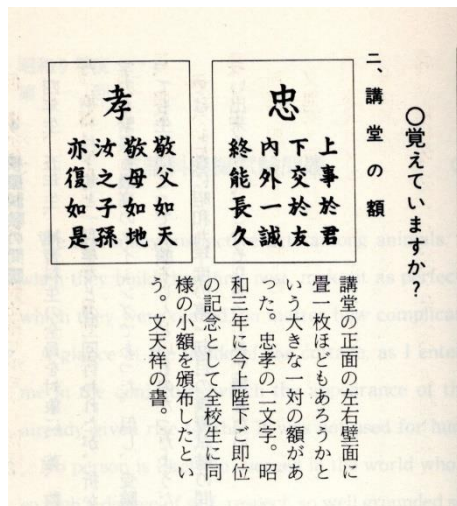
- **作成の経緯:**昭十会の前身は昭和 16 年 3 月に結成した「城北昭拾会」であり、昭和 10 年の卒業生 170 名と昭和 9 年の「四修進学者」51 名の合計 221 名を予定したが、同年 12 月の開戦により会の活動は中断した。敗戦後の昭和 37 年 5 月の城北会総会において「昭十会」の復活を相談した。戦災などで資料が散逸したが、約 150 人の消息を集め、以後毎年会合し、卒業五十周年誌」の作成は 59 年に計画・実施した。
- **在学時代の思い出:**旧制中学は小学校卒業後 5 年間だが、四中では「補習科」があり、合計 6 年を過ごすものも多かった。
- 当時の四中には、現在では考えられない厳しい規則や指導があった。例えば、毎朝の定時がすぎると校門を閉ざして、遅刻者は学校に入れない、従い時に市ヶ谷駅から左内坂・校門まで五人一人二十銭の相乗りタクシーと成った(P92)。制服のポケットは縫い付けて閉じる、正規授業後に居残りでの学習を指示される。しかし、三輪田高女の生徒さんとのすれ違いも懐かしい。卒業後に五十年も経過すると、すべて、良かったのではと肯定的に受け止めて感謝している。
- 四中では、遠足に山歩きが多く、ある方は 4 年の夏休みに有志 20 数名と共に漢文の大輝先生の北アルプス登山に参加し、その後、登山の「とりこ」となって、社会人になっても山登りを続けた。(P152)
- **時代の背景:**三年の二学期の学習中に、校舎二階の教室から東の方向に黒煙騰々を見た、後で聞くと日本橋白木屋デパートの火事で従業員避難に難渋とのことであった(P75)。
- 昭和 11 年 2 月 27 日に四中では補習科の授業が行われていた。同級の緒方研二君から父・緒方竹虎氏(後の副総理)の勤務する朝日新聞社が前日に反乱軍に襲われた状態を聞かされたものだった(P26)。
- **戦争の影響:**多くの級友が「陸軍士官学校・海軍兵学校」など軍人の道を選び、その他の大学進学者、特に医学部進学者が「短期現役」として、軍務に参加した。
- 同期高井貞夫君は、初戦のマレー沖海戦で英国戦艦 Prince of Wales, Repulse を撃沈した雷撃隊に中隊長として参加したはずである(P36)。
- 海軍に奉職した内田静雄君は軍艦「加古・足柄」に勤務、五回の死地を経て、なんとか生還し今があると言う(P89)。
- 大陸において、木下俊輔君が敗戦後シベリアの収容所で捕虜としての生活を 1000 余名の仲間と 3 年間送ったが、一人も餓死者を出さなかった。ソ連の収容所長と交渉し、食料品についての配給に配慮してもらい、分配については「捕虜に階級無し」として、将校・兵卒を厳格に平等にした。帰国後、大部分のシベリア収容所でかなり多くの餓死者が出たとの話を聞き、それ

らの収容所では食料の分配が、将校・兵卒の間で平等になされなかった？のではないかと記述している。

- **編集後記の記事：** 編集者は物故者について下記のようにまとめている。病気で休学する人と転校する人が多かった。中学4年で一人、旧制高校在学中に2人、卒業後数年以内に9人、第二次大戦以前のノモンハン事件等で3名、第二次大戦では軍医4人、海軍3人、陸軍4人を確認、更に詳しく調べようとしているが終戦時のドサクサでわからない、当時の四中の1学年の人数は約250人である。(以上)
- 昭十会の「卒業五十周年誌」には、昭和八年卒の五十周年誌が有ったと記述されており、昭和一桁の卒業生でも五十周年誌がつくられたようである。城北会事務局にお願いして、これからでも遅くないと思うので、出来るだけ古くからの「五十年誌」を集めて頂き、保管して参照可能にしたら良いのではと考えています。(尾崎)

追記

掲載図表より： 講堂の掲示物と四中の航空写真



20年3月、4月の空襲で焼失した加賀町の四中校舎

因みに、「文天祥」は、モンゴル(元)に滅ぼされた「南宋」の軍人政治家。フビライ・ハーンから仕官を促されたが、忠節を理由に断わり刑死で有名。国と主君への忠義を記した「正気歌＝正しい行いとは」があり、幕末の吉田松陰・藤田東湖なども見習ったと言う。

宋の丞相：文天祥曰く、『忠とは、上はよく君主に仕え、下は朋友とよく交際することである。こうすれば家の内外一切は永続できる。孝とは、父を天のごとく敬い、母を地のように敬うことである。さすれば、汝の子孫も同じくするであろう』だそうです。

高田馬場4-29-39の「鉄砲稲荷」よりも大きな『皆中稲荷神社(かいちゅういなりじんじや)』が新大久保駅近くに有ります。

神社のホームページ(<https://www.kaichuinari-jinja.or.jp/>)によれば:『皆中稲荷神社(かいちゅういなりじんじや)は新宿区百人町1-11-16にある稲荷神社で JR 新大久保駅の西約 100m の市街地に鎮座している。賭け事に利益(りやく)があるとして有名な神社である。』



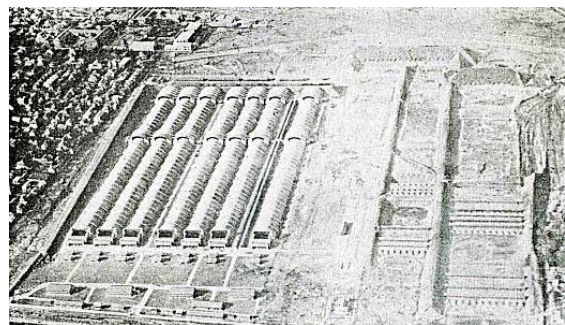
由来として、天文 2 年(1533 年)9 月のある夜、稲荷大明神が鉄砲組与力の夢枕に立ち射撃を伝授した。その靈験が評判となり、皆中稲荷(みななかのいなり)と呼ばれるようになった。その後「当たる」ものに利益(りやく)があると人気をあつめ、現在は「賭けごとの神」として親しまれている。

米軍大久保試射場 『早稲田ウイークリー(2011.12.08)』によれば、

(<https://www.waseda.jp/inst/weekly/column/2011/12/08/56977/>)

理工学術院が使用している西早稲田キャンパス一帯は、陸軍用地として終戦に至るまで使用され、戦後は米国駐留軍が接收。その解除は実に 1955 年のことであった。

陸軍の史料には 1873 年 6 月に尾州徳川家が所有していたこの土地を、射的練兵場などを設置するために兵学寮に交付する旨の記載がある。昭和初年、陸軍は射撃場全体を鉄筋コンクリート造りのトンネルでおおうという作業を講じた。それは巨大な土管を並べて埋めたような外見で、「東洋一」を誇る頑強な構造を備えていた。合計 7 本あった「土管」の 1 本 1 本の全長は 300 メートルにも及んだ。



(以上)

鉄道のゲージの話

齊藤 徳 浩(昭32)

鉄道にはゲージというものがあります。レールとレールの間の内側の幅です。ゲージが違くと直通運転ができません。

例えば、京王電鉄には京王線と井の頭線がありますが、京王線は 1372mm(4フィート6インチ)、井の頭線は 1067mm(3フィート6インチ)で、直通運転ができません。京王線は開発当初、将来路面電車として街中を走ることと考えてストリートカーゲージ4フィート6インチ 1372mm を採用しましたが、井の頭線は東急系の帝都電鉄が3フィート6インチ 1067mm でしたのでそのまま使いました。同じ会社なのに2つのゲージをもつことになったので、吉祥寺発新宿行きという運転はできません。

そもそも世界の標準軌といわれている 1435mm(4フィート 8.5 インチ)はどのように生まれたのでしょうか。これは蒸気機関車を発明したジョージ・スティーブンソンが炭鉱労働者の息子だったからです。1814年、最初の蒸気機関車を開発したときに、炭鉱で使われていた 1435(4フィート 8.5 インチ)をそのまま使ったことにはじまります。1825年にはストックトン―ダーリントン間に世界ではじめて客車を走らせましたが、それが現在世界で最も多く使われている標準軌になったのです。

日本ではJRの在来線のすべてが採用している 1067mm(3フィート6インチ)がもっとも普及しているゲージです。

国鉄はなぜ 1067mm にしたのでしょうか。鉄道王国といえばイギリスで、わが国最初に機関車を購入する際に国土事情からして狭軌の3フィート6インチがよかろうということになりました。ニュージーランドも事情は同じです。

日本で国鉄がまだない時代に、国が今後、鉄道を敷設する場合には 1067mm にしようとする法令を決めました。お蔭で最初は民営で始まった鉄道各社が共通のゲージだったので、後に国鉄に統合するときに都合がよかったです。

日本でも東海道線を計画するときに標準軌 1435mm(4フィート 8.5 インチ)にしようという案もありました。元満州鉄道総裁、のちの東京市知事の後藤新平は、満洲では標準軌 1435mm を採用していたので、東海道線も 1435mm にしようと考えていました。軍部も東京・下関に弾丸列車を走らせるにはスピードが速く戦車も運べるというので 1435mm を望んでいました。途中、シベリア鉄道の 1520mm にしようなど、紆余曲折がありましたが、結局、資金がかかり過ぎるので狭軌の 1067mm に落ち着きました。

箱根登山鉄道は世界に自慢できる優秀な登山鉄道です。まず、ゲージは 1435mm、APT式のようなラックレールを使わずに 80%パーミル(1000mm 行って 80mm登る)という急こう配を登ります。今はなき碓氷峠のAPT式が 66.7パーミルだったことを思えばそのすごさがわかります。山手線が新宿を出て新大久保に向かうとき中央線を跨ぎますが、その時の勾配が 25パーミルですから、箱

根登山鉄道の登坂能力のすごさがわかります。

いま小田急電鉄が箱根湯本まで運転しています。かつては箱根登山鉄道も小田原発でした。小田原・箱根湯本間は3線式といって、3本のレールを広い方を箱根登山鉄道 1435mm が使い、狭い方を小田急 1067mm が使う方法をとっていました。今は箱根湯本までは小田急線専用、箱根登山鉄道は箱根湯本を始発駅にしています。

近畿日本鉄道では、途中で改軌という線路の幅を変える思い切った方法をとったことがありました。

近畿日本鉄道は、元々大阪線は 1435mm、名古屋線は 1067mm という2つの路線をもっていました。同じ会社なのに直通運転ができないというので、第二次世界大戦のあと改軌が計画され、1959 年になって伊勢湾台風による被害を機に、橋梁架け替えと合わせて名古屋線を 1067mm から 1435mm へ改軌を実行することにしました。当時社長の佐伯勇の英断です。お蔭で同年(1959 年)12 月には「ビスタカー」という眺望のすばらしい新型車両を大阪・名古屋間・直通運転ができるようになりました。

スイスに旅行して、有名な氷河特急(グレイシアエクスプレス)に乗った時、駅の踏切で、急いでゲージを測りました。私の手を広げて親指から小指の間が約 20 センチなので、5 尋ありましたので、私はてっきり日本の JR と同じ 3 フィート 6 インチと思いこんで、帰国して鉄道マニアの友人に伝えたところ「斉藤さん、違うよ。あれはメーターゲージといって 1000mm ちょうどなんだよ」といわれてビックリしました。メーターゲージはドイツではほかにもあるようですが、そんなことは知りませんでした。マニアというのはこんなことがうれしいのです。そのときお土産に買った、底が斜めになっているカップよりもメーターゲージに気づいたことの方がマニアにとっては何倍も感動ものでした。

東海道新幹線は標準軌 1435mm で 1964 年 10 月に東京オリンピックに合わせて開通しました。長年の念願がやっとかなったのです。しかし当時の国鉄総裁十河信二(そごうしんじ)と、技師長の島秀雄(しまひでお・四中卒)の二人三脚で達成したにもかかわらず、二人とも東京駅で行われた開通式(1964 年 10 月 1 日)には呼ばれませんでした。現実には莫大な費用がかかり、予算オーバーの責任を取らされたのです。新幹線はその後も山陽新幹線、九州新幹線、東北新幹線など発展を続けており、宇都宮・盛岡間では 320km/h で平常運転されています。他の地区では騒音防止のため、速度が制限されています。

今ではゲージで問題になることはありませんが、鉄道開発競争時代には、オーストラリアでは各社勝手に開発しましたので、20 種類ものゲージができてしまいました。あとで統合するのに長年かかったようです。これも、もう昔話になりました。

私と国際親善交流

於保洋生（昭35）

今回は、国際親善交流について書いてみようと思う。

私は、川端康成がノーベル文学賞を受賞し、ブルーライト横浜がポピュラー曲になった1968年{昭和43年}3月に東京外語大学国際関係コースを卒業した。

男子学生の多くが、語学、文学コースではなく、国際政治、国際経済、貿易理論等を学べる国際関係コースに進んで、就職はマスコミや商社やメーカー海外部に進むのが多かった。留学生も多く、国際交流に向けた大学だったが、在学中は、同じクラスの親友、S. Kが赤門近くの新星学寮（東大の穂積吾一教授主催）に住み込んで留学生と寝起きを共にしてサポートしていたので、時々、そこや、関連施設の、JR巣鴨駅から白山方面に暫く行ったところにある、アジア文化協会で、ブータタンなど留学生とピンポンをしたりして、親しく交流していた。又、私は参加しなかったが、日本の大学に留学している外国人学生と一緒に北海道旅行をした親友の話を羨ましく聞いたものである。

卒業後、T社では、海外営業企画で、磁気テープ事業部では米州も担当し、国際交流に向けた仕事に従事していて、T社時代や定年退職後、其々、約50回出張した、中国（拙稿「上海の懐かしい思い出」参照、上海でも多くの人と交流した）や韓国でも国際交流したが、何と言っても一番思い出が深いのは青春時代に担当したブルガリアである。

YAHOO JAPANの検索欄に、私のフルネーム「於保洋生」を漢字で入力すると、拙稿「郷愁のブルガリア」が読めるので、是非御参考にして頂ければ幸いである。

大学卒業後、T社では、海外営業部企画課に配属になり、ソ連東欧地域も担当していたのだが、1970年、ブルガリアの輸出入公団から、民生用電子部品（フェライト）製造プラントの引合いをもらい、契約交渉や工場視察案内等を経て、1972年1月、商社抜きで契約を締結出来た。（当時の価格で11億3千万円、今の価格で約113億円）

当時は、海外に出張する人も少なく「海外雄飛」の言葉がまばゆい時で、渡欧するのに、羽田から先ずアラスカのアンカレッジに飛んで、そこで、燃料を補給してから、北極海を越えて、ヨーロッパに入った。北極海の氷をじんわりと眺めた事を良く覚えている。最初の欧州訪問地は、経由地ブラッセルであったが、飛行中の睡眠不足で、同行者との待ち合わせ時間に大幅に遅れてしまった失敗も良く覚えている。

ブルガリア駐在時や出張時代にソフィアやペルニク（ソフィアの北方約30km）等で、私一人だけでも、約150人のブルガリア人と会い、親善交流できたわけであるから、T社トータルとしては、数千人のブルガリア人と国際交流したことになる。これは良く考えてみれば、凄いことだと思う。この多くのブルガリア人との国際親善交流は、T社にとっても私にとっても、大きなプラス財産であると思う。ブルガリアの輸出入公団の魚好きの総裁が魚の顔を見たいと言うので、早朝の築地市場を案内した時の、満足そうな嬉しそうな笑顔が今でも忘れられない。

当時のこの国際親善交流経験を活用して、ある意味では、ブルガリアへの恩返しの意味で、来る10月15日(土)に駐日ブルガリア共和国大使館の一等書記官P. N氏の講演を柏パレット(主催: 柏国際交流協会、後援:ブルガリア共和国大使館)で行う事を企画した。尚、受け入れは、慣れている柏国際交流協会の国際理分科会メンバーに殆どお任せした。宜しくお願いします。

少しでも多くの市民に、ブルガリアの諸事情を知って頂き、ソフトパワー的な国際交流をして頂きたいと思った。今、現在、米国の国際政治学者ジョセフ・ナイが言うところの、「他国を軍事的、経済的に「ハードパワー」で強引に従わせるのではなく、自らの魅力によって味方に付ける力「ソフトパワー」(源泉は文化、価値観、外交政策である)が益々重要になって来ていると思う。更には、パブリック・ディプロマシー(pDの考え)が、即ち、自国の存在感、イメージ、理解を高める為には、相手国政府ではなく、草の根運動的に、相手国市民に対して働き掛けるのが大切なのではないかと考えている。

今回の講演会を契機に、密なるブルガリア大使館との絆(昔、元日本駐在ブルガリア大使P. B氏にも私の結婚式にも出て頂いたこともある)を活用して、今後も、ブルガリア人が誇りに思っている、音楽やダンス、新体操や観光などを紹介して行きたいと思う。

これに先立って、柏市のウクライナ避難民受け入れ情報を知って、何か私で出来ることは無いかと自問して、柏市の秘書課の紹介で、受け入れ担当センターに毎日の様に、顔を出して会って、真っ先にウクライナ支援ボランティアに申請し(言葉がわかるので)、更に(支援金等を応援している、PPIH社(ドンキホーテの親会社)の小数株主だったので、)の本社担当者と交渉して、柏のウクライナ避難民サポートの仲介をして、スーパーで働けるようにサポートした。然し、個人情報壁が有り、ウクライナ避難民の具体的な希望を確認して、一歩、2歩踏み込んだサポートをするまでには、至らず、残念に思っている。どなたか、此の個人情報の壁を乗り越える秘策を御存じだったら教えて頂きたい。今後、もし、避難民が希望するならば、就労ビザを延長して、就労機会を伸ばしたり、又、英語の達者な人にはPPIH社の海外部門への就労も、もし希望するなら、サポートしてあげたいと思う。

又、日本語学校など私の人脈を活用して、柏だけでなく、霞が関とも連絡を取って、私の経験と人脈を活用して多方面での更なる避難民への積極的なサポートも出来ればと思う。

深井鑑一郎先生と深井奨学財団について

後藤公一（昭 50）

深井奨学財団の理事になって7年が経過した。今年は長年城北会と深井財団の事務局長を続けてこられた庄内正文さんが退職された他、評議員、理事、監事の大きな人事異動が行われた。この機会に深井先生の来歴をはじめ財団設立経緯、沿革、現況をまとめてみた。

深井鑑一郎先生の来歴と業績

深井鑑一郎先生は慶応元年(1865年)5月6日 武州岩槻藩邸に生まれ、明治16年(1883年)東京大学文学部古典科に入学した。

戸山高校の創立は、明治21年(1888年)補充中学校として開校。「補充中学校」、「共立中学校」、そして明治27年(1894年)に「尋常中学校」となった。深井先生は明治24年(1891年)9月 共立中学校に漢文の先生として奉職。その後明治31年(1898年)に、33才で「東京府城北尋常中学校」校長に就任し、昭和13年(1938年)7月まで校長を40年余り歴任した。

校長時代は明治31年(1898年)～昭和13年(1938年)であるが、明治34年(1901年)4月には二中(立川)、三中(両国)とともに府立四中がスタートしている。

明治37年(1904年)前年から建築していた加賀町新校舎にて授業が始まり、校舎は戦災で焼失するまで使用された。開校式典では四中校歌が発表され、その曲が今に続いている。

「城北尋常中学校」以来、補習科を設けて受験指導を行っていた。当初は、上級学校進学者指導は、4月から6月までの期間だった。大正8年(1919年)上級学校の入試が、3月に変ったため、浪人のための1年間を通した指導体制に切替わった。これが、「四修」の始まりである。

その後補習科は大正14年(1925年)から、本校卒業生以外に、他府県中学校卒業生にも開放し、志望者を選抜受講させた。昭和10年(1935年)府当局から「他府県卒業生は、除外せよ。」との命令を受けた。しかし深井校長は門戸開放主義者であったため、昭和10年に私財を投じて市谷左内町に「私立城北高等補習学校」を創設。また大正13年(1924年)「私立四中夜間中等学校」を本校内に創設し、関東大震災の被害を受けた生徒の救済を目指した。後に「府立精思中学」と改称し、戦後の定時制戸山高校が発足するまで続いた。

昭和9年(1934年)11月、深井校長の古稀の祝賀会を同窓会主催で開催。祝賀募金のうちの1万円で、昭和10年2月5日に「財団法人深井奨学財団」を設立。

昭和12年、御料地32町部8反余の払い下げを受けて、本校創立50周年事業として費用(5万円)を校友会が出して「那須修養道場」を創設した。

昭和13年7月、深井校長は退職、その後、昭和16年に城北高等補習学校寄宿舎を仮校舎と



して「城北中学校」(後の城北学園)を開校。女子中等教育では、昭和15年に「私立富士見高等女学校」を山崎種二氏とともに引き継ぎ(後の山崎学園)の経営にかかわる。

深井奨学財団の沿革

昭和9年(1934年)11月、深井校長の古稀の祝賀会を同窓会主催で開催。

祝賀募金のうちの1万円で、昭和10年2月5日に「財団法人深井奨学財団」が設立された。

(1) 府立四中の生徒または生徒たりし者に対する学資金の補給

(2) 府立四中教職員の特殊の研究に対する補助

(3) その他の目的(生徒の教育に寄与する)達成のため必要な事業

を事業目的とした。しかしながら深井先生在職中に目立った活動がなかった。

深井先生の薫陶を受けた卒業生を中心に、昭和33年、活動資金の確保のため寄附金の募集活動を開始し、昭和39年から奨学金給付を開始した。

その後活動が停滞したが、昭和61年4月からは奨学事業を再開した。同時に昭和62年の戸山高校創立百周年記念事業の一環として財団の財務基盤を強化するために、卒業生に対して一億円を目標とする募金活動を開始した。

公益法人改革三法が施行されたことにより、平成23年4月1日「公益財団法人深井奨学財団」に移行した。

奨学金等の給付

奨学金は毎月1万円ずつ1学年10名程度の戸山高校生と新宿高、青山高等数名に給付している。公益財団運営の要件を満たすため他行生徒にも給付している。給付生が大学に合格した場合には24万円(来年から30万円)のお祝い金を進呈している。また奨学金とは別に教育助成としてSSH(Super Science Highschool)活動を支援している。

奨学金等の給付実績 奨学金等の給付実績

| | 奨学金 | | 大学入学お祝金 | | 教育助成/SSH | |
|--------|--------|----|---------|----|----------|----|
| | 金額(万円) | 人数 | 金額(万円) | 人数 | 金額(万円) | 人数 |
| 2012年度 | 420 | 35 | 264 | 11 | | |
| 2013年度 | 442 | 37 | 288 | 12 | | |
| 2014年度 | 412 | 35 | 336 | 14 | | |
| 2015年度 | 409 | 35 | 216 | 9 | 30 | 6 |
| 2016年度 | 420 | 36 | 240 | 10 | 40 | 8 |
| 2017年度 | 366 | 32 | 216 | 9 | 50 | 10 |
| 2018年度 | 414 | 35 | 264 | 11 | 50 | 10 |
| 2019年度 | 347 | 30 | 336 | 14 | 0 | |
| 2020年度 | 372 | 32 | 312 | 13 | 0 | |
| 2021年度 | 396 | 34 | 192 | 8 | 0 | |

寄附金募集

奨学金の原資となる寄附金の募集状況を表にまとめた。例年200名以上の方から寄付をいただいている。税制優遇のある奨学基金への寄附が多く、90名程からは毎年継続引落の安定した寄附をいただいている。深井先生の親族(深井家、安藤家)からは高額の寄附をいただいている。また深井先生と教育事業で関係の深かった井上源之丞氏が社長であった凸版の後代の社長の鈴木氏、深井先生と「山崎学園」の設立にあたった山崎種二氏の子息が名を連ねている。なお寄附金が累積50万円以上の方は深井先生の胸像の側面に銘板にて顕彰している。

寄附金の募集実績

| | 奨学基金 | | 戸山教育助成 | | 奨学基金継続賛助会員 | |
|--------|---------|-----|--------|----|------------|----|
| | 金額(万円) | 人数 | 金額(万円) | 人数 | 金額(万円) | 人数 |
| 2012年度 | 643.8 | 243 | | | 46.3 | 67 |
| 2013年度 | 1,448.2 | 254 | | | 50.0 | 68 |
| 2014年度 | 506.5 | 243 | 20.0 | 18 | 56.5 | 79 |
| 2015年度 | 501.8 | 259 | 30.1 | 50 | 56.5 | 79 |
| 2016年度 | 605.4 | 273 | 60.1 | 75 | 62.8 | 75 |
| 2017年度 | 862.1 | 271 | 45.4 | 59 | 68.3 | 81 |
| 2018年度 | 701.5 | 265 | 37.4 | 58 | 71.0 | 84 |
| 2019年度 | 343.3 | 260 | 35.6 | 67 | 71.1 | 85 |
| 2020年度 | 495.4 | 300 | 24.1 | 75 | 91.2 | 84 |
| 2021年度 | 436.0 | 304 | 34.0 | 85 | 89.1 | 78 |

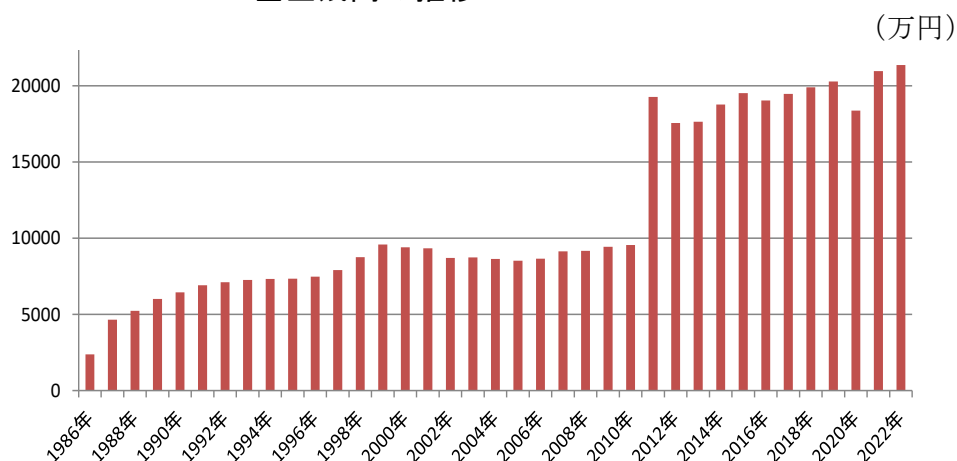
高額寄附者（300万円以上、最終寄附年）

| | | |
|----------|-------|----------------------|
| 安藤 敦夫 | 1985年 | 深井鑑一郎校長の外孫 |
| 百周年実行委員会 | 1988年 | |
| 高木 養根 | 1996年 | 深井理事長、日本航空社長 |
| 岩野 由岐夫 | 2005年 | 四中・英語の教諭 |
| 鈴木 和夫 | 2006年 | 深井理事長、凸版印刷社長 |
| 山崎 富治 | 2007年 | 深井評議員、山種証券社長、山種美術館館長 |
| 安藤 温夫 | 2010年 | 深井鑑一郎校長の外孫 |
| 深井 幸男 | 2013年 | 深井尚一(鑑一郎の孫)の養子 |
| 深井 幸江 | 2013年 | 深井尚一(鑑一郎の孫)の養子 |
| 匿名希望 | 2017年 | * 亡くなった後、公表のこと |
| 土居 典子 | 2018年 | 税理士 |
| 恒川 純吉 | 2018年 | * 遺贈 |
| 住田 笛雄 | 2021年 | 深井理事長 |
| 武田 哲夫 | 2021年 | 日本銀行、拓殖大学名誉教授 |
| 城北会 | | |

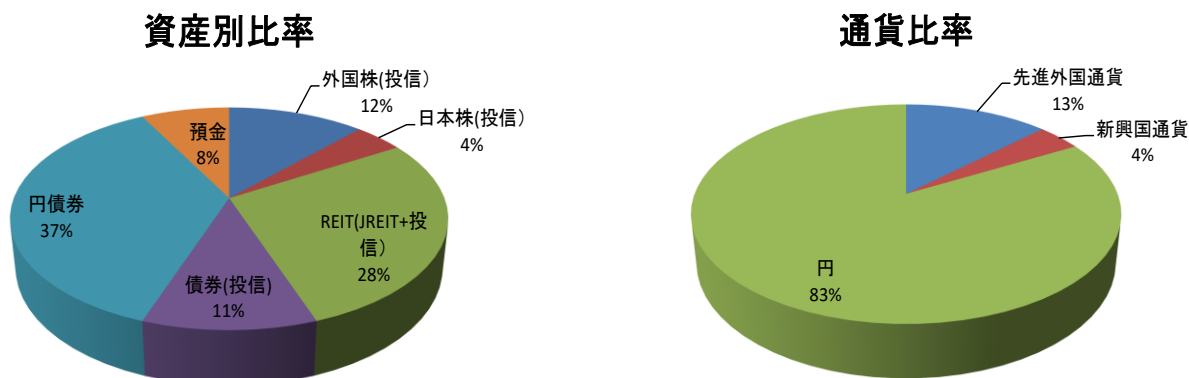
基金の状況

寄附により基金財産は着実に増加している。財産の運用は主に円建債券、JREIT、投資信託で行っている。給付金と管理経費の額が毎年の寄付金を上回る状況が続いており、不足分は財産運用で賄うことになるが、ゼロ金利の定着により、投資信託等でリスクを取りリターンを得る運用を行っている。

基金残高の推移



運用資産のポートフォリオ (2022.3)



今後の課題は寄付活動による基金を大きくしていくことである。出来れば戸山卒の大学生、大学院生にも給付できるような基金の規模にしたいと考えている。城北会会員と関係者にはご支援をお願いに参上する所存です。

千葉城北会誌 第 19 号

令和 4(2022)年 11 月発行

城北会千葉支部

会 長 岡田 光正 (昭 35)

副会長 於保 洋生 (昭 35)

顧 問 尾崎 英二 (昭 31)

顧 問 斉藤 徳浩 (昭 32)

事務局 仲野 慎一 (昭 50)

後藤 公一 (昭 50)